

海燕

うみつばめ

第 3 2 号

2007. 2. 10

発行人／石井 暎禧

編集長／辻田 征男

副編集長／高本 哲男

石心会グループ

医療法人財団 石 心 会

医療法人社団 光 和 会

社会福祉法人 石心福祉会

医療法人社団 新 緑 会

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580ソリッドスクエア東館 4F

TEL : 044-511-2266(代) FAX : 044-540-1135

<http://www.sekishinkai.or.jp>

7:1 看護体制へ

病院一丸となって実現しよう。

理事長 石井 暎禧

昨年 の 診療 報酬 改定 で、看護 体制 に 7:1 という、これまでの10:1 (旧基準では2:1 看護 に相当) より診療報酬上 の 評価 が 高い 要員 基準 が 新設 され ました。このため、首都圏の大学病院等をはじめとしてやみくもにこの取得に向かって走り始めたように見えます。そのあおりを受けて、全国的にかつて無いほどの看護師不足現象が起きています。こういった看護要員基準が出来た背景には、入院患者の在院日数が欧米に近づき、医療密度が濃くなり、患者への対応、医療安全など、かつてないほど看護師の労働が大変になっていることが背景としてあります。しかしながら、現在では、診療報酬上の評価の高い扱いを目指して一種のブームとなっているといっても過言ではないでしょう。この事による現場の混乱を收拾するため中医協では、一定の看護必要度を有する病院以外はこの基準に基づく診療報酬を算定できない仕組みを作るべきだという点で合意し、厚生労働大臣に建議

する事となりました。しかしながら、この事で看護師争奪戦に歯止めがかかるかどうかは未知数です。

安全で質の高い医療を実現するため、われわれもまずは競争が激化している看護要員の確保を第一に考えなくてはなりません。すでに、病院の現場の実情は10:1の要員では明らかに不足しているからです。そのために我々は出来るだけ早くこの7:1体制の実現を目標に掲げ、掲げるだけで無く、これを実現する組織体制を構築する必要があります。

これを実現する組織体制とは、看護師の求人を看護部任せにするのではなく、病院全体で取り組む人的な配置をすることです。そして、ただ集めるだけでなく、個人の能力を向上できるような教育体制を病院挙げて構築し離職率を下げるのが大事であるといえます。

各病院の早急な取り組みを期待しています。

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》(1901)に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鴉らの群を尻目に、

海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)

E.C.C. Emergency Critical Care 確実な救命手技の修得を目指して

狭山病院外科 坂本 信之
(SAYAMA HOSPITAL E.C.C.委員会)

■確実な救命手技の修得を目指して

1974年、米国心臓協会(AHA)が蘇生のガイドラインを作成した。それから26年、ヨーロッパと米国で心肺蘇生の国際ガイドラインが作成されたのが2000年であった。病院外で起こる急変(心肺停止)に対して一切の器具を用いずに行う救命法がBLS(Basic Life Support)として、また病院内で使用可能なすべての機材と薬物を用いて行う処置法がACLS(Advanced Cardiovascular Life Support)として確立された。AHAの2000年のガイドライン(G2000)が公表されて以来、国内でもAHAの講習会とICLSコース(日本救急医学会:ACLS基礎コース)が開催されているが、2004年7月に一般市民のAEDの使用が認められてからは、各地の消防署などが中心となって一般市民向けの講習会も多数開催されている。

■狭山病院では

当院にもすでにAHA、ICLSの講習会を受講した職員がいて、技能向上のために

2006年5月にECC委員会が発足した。2006年7月に第1回目の院内コースが開催され、2006年11月までに3回の院内コース(ECCコース)が開催された。現在までの受講者数は36名である。このコースでは、実際にからだを動かして繰り返し練習することで手技を修得する。訓練用の人形(マネキン)と訓練用のAEDを用いて行うが、その他の資器材はすべて現場で使用しているものを用いている。

■ECCスタッフ募集

すでにECCコースを受講した方、院外でのBLS、ICLS、ACLSコースの受講経験のある方には院内コースのスタッフとして参加することでさらなるスキルアップを目指して欲しい。身につけた知識と技術を忘れないためにも、スタッフミーティングで情報を共有し復習しながら一緒に学ぶことは重要である。

シミュレーショントレーニングがきちんと繰り返し出来ること、多くのスタッフ(インストラクター)を配置したいことなど

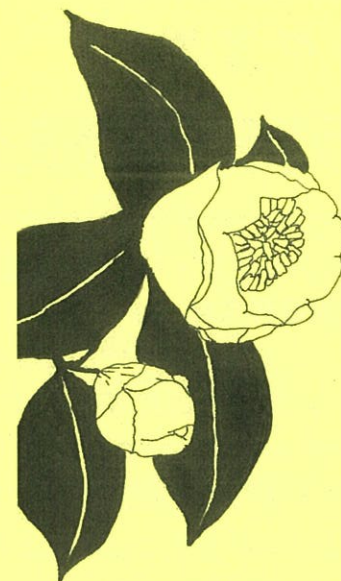
から1回の受講者数は12名に抑えている。数週間前から準備が始まり、当日を迎える。スタッフによるデモンストレーションの後、処置の流れを段階的に区切ったセクション(ブース)に分かれて実技を主体としたトレーニングを行っている。時間は約5時間。2月からはAED以外の蘇生器具を一切用いない一次救命処置法のBLS/AEDコースが開催予定である。こちらは約4時間の予定で、成人の急変時の対応



についてが主な内容となっている。

■今後のビジョン

BLS/AEDコースは病院内のみならず病院外で行うことの出来る一次救命処置法である。一般市民の講習会では小学生から高齢者までが受講できる内容でもあり、狭山病院でも、多くの職員が受講できるような、また多くのスタッフに参加できるような環境作りをしていくことが今後の課題である。今後、スタッフとして参加する職員が増え、より充実した院内コースを皆でつくっていききたいと思う。



白玉

★トピックス①

川崎幸病院病棟再編について

川崎幸病院

院長 岩井 良成

昨年11月1日、川崎幸病院において病棟再編が行われました。

今回の再編は、病棟を臓器別棟編成にすることにより、各診療科の専門性をより強く打ち出す、診療における効率性を高める、患者さんの安全を向上させる等、はもちろんのことさらに、現在進行中の新病院移転のシミュレーションとしても大きな意義があります。

最も大きな再編は「3階南」、「2階南」の2病棟で行い、具体的には3階南病棟に消化器病センター(外科、内科)、整形外科、2階南病棟に心臓病センター、大動脈センターを集約させました。3階北病棟(脳血管センター)、2階北病棟(内科)に関してはこれまで通りとしました。

病棟再編の経緯を簡単にご説明しますと、7月24日に、病院職員全体に方向性を明示し、職員からの意見書を検討後、8月7日に病棟再編の骨子と11月1日をXdayとすることを発表しました。その後、9月20日より6回にわたり、毎週水曜日の午前8時

より、関川副院長をリーダーとし、病棟再編会議を開催しました。早朝からの会議にもかかわらず、多くの職員が参加し、問題点の抽出や、改善策などについて活発な議論がなされ、着々と準備を整えてきました。また、工事に関しては、2SのHCU拡張工事を10月の頭の約10日間で終了し、一番の山場ととらえていた10月29日の電気工事の為の停電も、大きなトラブルもなく無事終了し、予定通り11月1日、粛々と病棟再編は完了しました。

院内の各部門がその枠を越え、お互いに様々な問題点を指摘し、議論しあうことができ、その結果これまで以上に病院全体に緊張感を伴った連帯感を感じる事ができました。今回の病棟再編が、病院全体を見直し、各部門の職員相互の連携を密にする非常に良い機会となったと考えております。

多忙な業務の中、それぞれの役割を担って努力してきた病院職員、総てに改めて感謝したいと思います。

★トピックス②

川崎幸病院

『MUZAランチ&ナイトタイムコンサート』の冠スポンサーに

■出演は『のだめカンタビレ』の舞台となった洗足学園音楽大学 他

「のだめカンタビレ」、ご覧になりましたか？音大を舞台にクラシック音楽に青春をかける若者達が人生の様々なドラマを展開する感動と興奮のヒット作でしたね。オンエアされたクラシック曲のCD売り上げが急上昇するなど、このドラマで若いクラシック音楽ファンが一気に増えたようです。



〈カルテット・スピリタス〉

■MUZA川崎『MUZAランチ&ナイトタイムコンサート』

さて、石心会がホールスポンサー(特別賛助会員)でもあるミュザ川崎シンフォニーホール(MUZA川崎)。最高レベルの音響設計がなされた美しいワインヤード形式のこのホールはこれまでに数多くの国内外の著名演奏家を迎え、今や世界に向けた川崎の象徴となりました。このMUZA川崎で毎月一回行われ、地域の皆様やビジネスマン、OLに好評を博しているのが『MUZAランチタイムコンサート』。今年からは昼と夜の2回公演となり、『MUZAランチ&

ナイトタイムコンサート』へとバージョンアップされます。

■川崎幸病院が冠スポンサーに

このコンサートの8月27日(月)と9月28日(金)の両公演を川崎幸病院が冠スポンサーとして応援します。演奏は人気上昇中のサクソフォーン四重奏「カルテット・スピリタス」(8月27日)、そしてなんと、あの「のだめカンタビレ」のロケ舞台にもなった洗足学園音楽大学(9月28日)。これはクラシック音楽ファンにも「のだめ」ファンにも見逃せませんね。

■招待券20枚ご用意しました。

一般の入場料はランチタイム 500円、ナイトタイム 1,000円ですが、石心会グループ職員の皆様にはスポンサーチケット(招待券)が20枚用意されていますので、ご希望の方は各事業所にてとりまとめ、本部/尾崎までお申し込み願います。

※お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了承ください。



〈洗足学園大学マスタース〉
(左より右回りに、武内俊之/浅野真弓/市川雅己/斉藤香織)

川崎幸病院 PRESENTS

『MUZAランチ&ナイトタイムコンサート』プログラム

公演時間：ランチタイム 開場11:30 開演12:10(終演予定12:50)

ナイトタイム 開場18:30 開演19:00(終演予定20:00)

■ 2007年8月27日(水)

出演：サクソフォーン四重奏「カルテット・スピリタス」

■ 2007年9月28日(金)

出演：洗足学園音楽大学「変幻自在 音の饗宴」

(ピアノ2台による8手連弾)

《読書のすすめ》

手塚治虫：作

『陽だまりの樹』

最近の若い者は(僕も?)漫画を読んで世の中のことを学ぶ。そもそも講義室に漫画を公然と持ち込んでひんしゆくを買ったのはわれら団塊の世代だった。どうせ漫画を読むなら娯楽だけではなく、できれば歴史も学んで欲しい。

昨年の春、神田岩本町を歩いている時に「お玉が池種痘所」東京大学医学部の始まりと書いた小さな碑がひっそりと立っているのを見つけて、この本を思い出した。なぜかという、この本には江戸幕末に蘭方医が天然痘予防のため奔走したことから始まり、西洋医学の夜明けを迎えた時代を描写しているからだ。

作品のアウトラインはこうだ。

舞台背景は当然幕末。小藩の藩士・伊武谷万二郎と、蘭方医の手塚良庵(手塚治虫の曾祖父)という2人の若者を中心に、時代の激流の中を生きる庶民の姿を鮮やかに描く。作品中には手塚治虫の平和への強い願いと祈りが込められている。タイトル「陽だまりの樹」は、そびえたつ巨樹の内部が実はシロアリに蝕まれているという状況を、汚職と無気力が蔓延した

末期の江戸幕府に例えたもの。手塚治虫が自らのルーツを探った作品としても知られている。

幕末から明治というのは、日本史の中で最も面白い時代だと僕は思う。

僕が18歳の時が明治100年だった。僕にとって明治は遠い過去ではなく、学ぶことが多い。

この本を読んで幕末の歴史に興味を持ったなら司馬遼太郎の「胡蝶の夢」もあわせて読んで欲しい。

狭山病院 院長 青山 寿久



月光椿
雲龍柳

《趣味探訪》

胸に秘める“モータースポーツ魂”その魅力とは?!

新緑会脳神経外科 事務長 吉野 良平



シビック東日本 第3戦
予選2位 決勝2位

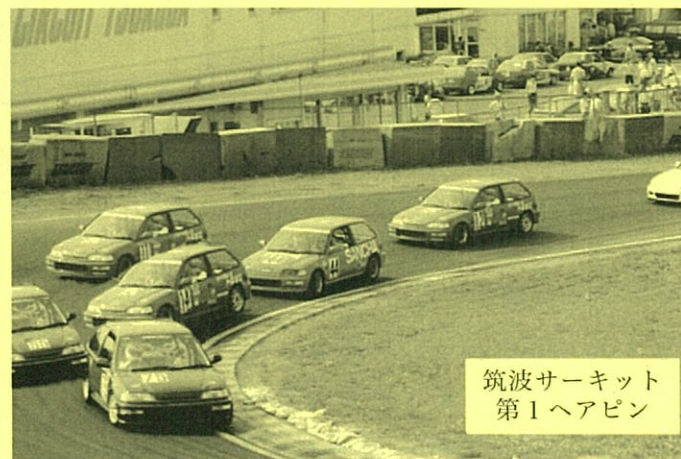
〈吉野氏：右……東京プロダクションカップ P1600クラス表彰式にて〉

自動車やバイクでコースを走り、マシンの完成度や運転技術を競う競技“モータースポーツ”。かつて最も熱をあげた趣味で、「メシのタネにしたい」と信じてやまなかったあの頃一。今は経済的な理由で活動していませんが、実は虎視眈々と再開のチャンスをうかがっているというのが本音です。学生時代から約8年、レースの魅力に取りつかれて多額の借金を抱えるまでになった、その経緯をご紹介します。モータースポーツというと何を思い浮かべますか？たくさんのスポンサー広告が貼られたレーシングカー、表彰式でのシャンパンファイト、会場に華を添えるレースクイーン……。テレビで見るF1のように華やかで派手なシーンを思い浮かべる方が多いと思われる。しかし、スポンサーや観客動員による収入で運営ができ、多額の賞金が支給できるレースはF1や全日本GT選手権などほんのひとにぎりの祭典だけです。しかも、才能のあるドライバーでもプロライセンスを取得し、賞金で生活していくまでにかかる費用は莫大になります。例えば1セット7万円位する「セミスリックタイヤ」は20周も走るともうデロデロ…。レースでは使いものにならないのです。苦しい経済状況ながらそれでものめり込んでしまったのは、「華やかに走ることに」魅力を感じていたからではありません。与えられた条件の中で、“タイムを縮めるために地道な調整作業を積み重ねて、納得の結果を得る達成感”こそが、とてつもない快感だったからなのです。何が原因でタイムが伸びないのかを探ってはその改善を繰り返す。1年がかりでやっと0.8秒タイムを縮める…なんていう完全にオタクの世界(笑)にどっぷり浸っていったのです。

●自動車工学部員14人の“草レース”時代 から JAF公認競技参戦へ

サーキットで自動車を走らせてタイムを競ういわゆる“モータースポーツ”との出会いは20歳の頃ですが、最初のきっかけは15歳の時。ナンバーも書類も無い400ccのバイクを解体屋で購入して関東村跡地(※1)の廃墟にバイクを隠し、ガソリンタンクの入ったリュックを背に自転車で通っては敷地の中で乗り回す(!)のが密かな楽しみでした。

埼玉医科大学短期大学に入学して



筑波サーキット
第1ヘアピン

から、念願だったシビックを購入。自動車を速くするための改造範囲は徐々に大がかりになり、次々と友人を自動車工学の世界に引きずり込んでいきました。顧問は埼玉医大の整形外科医・西澤良雄先生にひき受けてもらい、部員14人の『自動車工学部』を結成することができたのであります。

部活動の大半は一般の自動車整備と改造、秩父の林道で区間タイムを競うこと、そして年3回ミニサーキット走行会でタイムを競うことが主な活動でした。エンジンチューニングに関しては顧問の西澤先生が非常に強力な指導者になってくれたことが幸いし、先生の自宅に泊り込み、ガレージでエンジンの組み立てと載せ換えを指導してもらったことまでありました。



富士スピードウェイ

それらの活動が評価(?)されたのか、年間部費も100万円くらい支給される活動団体にまでなり、あちこちの走行会で優秀な成績を収めていきました。4年目の秋(※2)には栃木県の日光サーキットに部員3名が出走し、80台中2位と6位と10位。3人とも1,600ccの車でベスト10入りを果たしました。当時は自分たちで組んだエンジンが“走る”ことだけでも嬉しいのに…それが“速い”となるとそれはもう“異次元の喜び”に変わることを知った時代でした。

短大を出て理学療法士免許を取得、川越市の総合病院に就職後も夢を捨てきれず、JAF主催の公認競技への参戦を目指しました。5年型落ちのレース車両を購入して“国内競技運転A級ライセンス”を取得後、幾多のオーディションを経て「三軒茶屋レーシングサービス」というチームへ。富士スピードウェイ、ツインリンクもてぎ、筑波サーキットなど、東日本を代表する高速サーキットに活動の場を移していきました。レース車両の外観は市販車のシビックとさほど変わりはないのですが、最高出力200馬力以上、富士での最高速は220km/hにもなります。車両重量も890kgと規定されています。レースは限られた改造範囲の中でいかに“良いセットを作れるか”ということと“ドライビングテクニック”の両方を競います。チーム入りして1年6ヶ月の準備期間を経て実現したデビュー戦では、チームとして7年ぶりの表彰台に立ち、自分を拾ってくれたチームと監督だった店のオヤジに恩返しができることは一生の思い出となりました。限られた時間の中、なけなしの資金をつぎ込んでJAF主催の公認競技に参戦できたのはわずか2年間。通算獲得賞金12万円、スポンサー褒賞金4万円。あっという間の競技人生でしたが、“とりあえず”ピリオドを打ったのは7年前。ピーク時には200万円以上(!)の借金があったことは、今でもあまり笑えない昔話かも知れませんが、それでも夢は、現在のN1レースの最高峰でF1の前座レースでもある「ホンダインテグラ」のワンメイクレースに出場することです!

(※1) 東京調布市にある旧米軍家族居住地区。1973年に日本に返還され、現在の“味の素スタジアム”などが建設されるまでの1999年までの24年間、東西10キロ四方の広大なゴースタウンとなっていた。

(※2) 熱心な自動車部活動と出光興産でのアルバイトのため留年を経験。4年間の部活動が可能となった。

ミュージック・サロン



■さやま総合クリニック ヘルシーコンサート♪

まずは毎月一回(第一土曜日)開催される「さやま総合クリニックヘルシーコンサート」から、平成18年10月7日の模様をレポートいたします。当日の演奏はヴィオラ・マリンバ・ピアノによるトリオアンサンブル。親しみのあるメロディーが見事なアンサンブルによって奏でられると、会場の皆様から期せずしてハミングが生まれました。

演奏：齋藤麻衣さん(ヴィオラ：東京芸術大学卒) 山崎史子さん(マリンバ：国立音楽大学卒)

村沢裕子さん(ピアノ：武蔵野音楽大学卒)

曲目：愛の言葉、情熱大陸、川の流れるように、妖精の森、他

さやま総合クリニックではこの他にも「スタッフピアノコンサート」(11月11日(土)、出演：山西晶子さん(ピアノ※狭山病院薬剤室)、赤木舞さん(ピアノ))、「オペラ歌手&ピアノ クリスマスコンサート」(12月16日(土)、出演：葭田晃さん(テノール)、赤木舞さん(ピアノ))が開催され、こちらも大好評でした。

☆ヘルシーコンサートのいわれ

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。



■川崎幸病院・川崎幸クリニック 第17回うるおいコンサート♪

平成18年12月16日(土)、川崎幸病院・川崎幸クリニックでは「第17回うるおいコンサート」が開催されました。出演は声楽家で洗足学園音楽大学講師の堀越先生、榎戸先生他で、曲目はクリスマスにちなんだナンバーです。繊細かつ華麗な歌声に会場から感動の拍手が巻き起こりました。

出演：堀越みちこ先生(ヴァイオリン：洗足学園音楽大学音楽学部講師、日本弦楽器指導者協会理事)

榎戸邦子先生(歌：洗足学園音楽大学音楽学部講師、声楽家)、強瀬雅之さん(ピアノ)

廣瀬聡さん(ピアノ)、中田明日香さん(歌)、高橋麻莉子さん(フルート)

曲目：トロイメライ、アヴェマリア、星に願いを、きよしこのよる、「カンタータ第Ⅱ集より」、他

■立川介護老人保健施設わかば クリスマス会コンサート♪

平成18年12月20日(水)には「立川介護老人保健施設わかば」でクリスマス会コンサートが開かれました。プロ打楽器奏者の矢島美紀さんによるマリンバの演奏が披露されました。深い響きを持つマリンバの響きに入所者の皆さんは聴き入っていました。

出演：矢島美紀さん(マリンバ：国立音楽大学卒)

曲目：道化師のギャロップ、マリンバのお話、クリスマスメドレー、青い山脈、ふるさと、他

★トピックス③

【川崎幸病院】

●10月21～22日 職員旅行(伊豆稲取温泉)

●11月 1日 病棟再編

●11月 21日 消防訓練

●11月 30日 コメディカル事務部合同発表会

●12月 12,15日 大動脈外科/山本医師フジTVにて特集

●12月 16日 うるおいコンサート

●12月 22日 看護部によるクリスマスキャンドルサービス

●定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)

・10月23,30日 『外傷学全般について』(講師：副院長兼外科部長

/関川浩司)

・11月 8,15日 『胸痛について』(講師：循環器科部長/大村延博)

・12月 5, 6日 『慢性呼吸不全の急性増悪』(講師：内科医長：中島玲子)

●院内勉強会

・第37,39回 10月27日,12月15日『医療事故・紛争防止のために～言葉と態度は処方である』

(講師：医療安全管理課長/今村寿彦)

・第38回 11月24日『認定看護師の必要性和その役割』

(講師：認定部門看護科長/石井早苗、3S病棟主任/菅原幸恵、透析室/小宮恵子)

●NST委員会主催勉強会

・10月25日 『当院におけるNST活動について』

・11月29日 『NST活動と保険点数』『起こしましょう!』

・12月20日 『NSTにおける看護師の役割』

【狭山病院】

●10月14～15, 21～22, 28～29日 職員旅行(焼津黒潮温泉) ※159名を3班に分ける。

●11月13日 日帰り職員旅行(水上温泉)

●10月19～20日 再就職支援講習会(看護部) 参加者12名

●10月12日～12月24日 本館病室内装改修工事

●12月 1日 防災訓練

●12月10日 看護研究発表会(11題の発表あり)

●12月10日 保育室クリスマス会 参加児34名

●12月21日 クリスマスキャロル 聖歌隊40名

●院内勉強会

・10月28日 『ボディメカニクスを学ぼう』 参加者80名

・12月 1日 『透析患者の看護』 参加者26名

・12月20日 『BLS(Basic Life Support)コース開催について』 参加者52名

●地域医療連携・公開カンファレンス

・10月21日 『糖尿病治療における食後高血糖是正の重要性』

(講師：埼根岸内科代謝クリニック/根岸清彦) 参加者32名

・11月18日 整形外科勉強会(講師：診療部長・整形外科部長/野本栄) 参加者64名



猫 柳

- ・ 12月2日 救急医療連携セミナー

『救急医療システムとしてのブレイン・アタックへの取り組みーPCEC・PSLSー』

(講師:埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター教授/堤晴彦) 参加者74名

【川崎胃腸病院】

- 11月17日～12月22日 3階病棟および1階一部内装改修工事
- 12月23日～1月21日 駐車場改修工事

【川崎幸クリニック】

- 12月16日 うるおいコンサート
- 11月30日 長崎県立佐世保西高等学校より訪問研修で来院 17名来院
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
 - ・ 10/11,12 参加計12名
 - ・ 11/15,16 参加計8名
 - ・ 12/27 参加計3名
- 食事の教室 管理栄養士
 - ・ 10月19日 『糖尿病予防のために～食事のバランスを整えよう～』 参加者20名
 - ・ 11月16日 『高血圧予防～塩分の適量を知る～』 参加者19名
 - ・ 12月20日 『おもてなし料理に使える～食材の切り方、料理の盛り付け方～』 参加者13名
- 糖尿病講座
 - ・ 12月2日 (講師:安島医師、看護師/坂部、理学療法士/増田、川村、栄養士12/清水) 参加者12名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。 参加者20名
 - ・ 第1回 『糖尿病とは』 10/4 11/8 12/7
 - ・ 第2回 『合併症と日常の注意点』『足の手入れについて』『検査について』 10/11 11/15 12/14
 - ・ 第3回 『インスリン療法』『運動療法』 10/18 11/22 12/21
 - ・ 第4回 『食事療法』 10/25 11/29 12/28
- 栄養室主催外来栄養教室 12月13日『おせち料理試食会』 参加者20名
 - ※外来糖尿病教室の一環として、おせち料理の説明と試食会を開催いたしました。
- 患者サービス向上委員会主催健康教室 参加者20名
 - ・ 11月18日『インフルエンザは怖いのか?』(講師:狭山病院院長補佐・小児科医師/豊永義清)

【川崎クリニック】

- 10月28～29日 HDF研究会(会場:ワークピア横浜)
- 12月12日 避難訓練
- 12月17日 腎友会忘年会

【アルファメディック・クリニック】

- 11月22日 川崎市近隣の健康保険組合の勉強会・川崎部会実務研究会を開催。18組合32名が参加

【川崎健診クリニック】

- 11月9,10日 全国労働衛生団体連合会 健診事後措置支援業務研究会 参加者1名
- 12月12,13日 全国労働衛生団体連合会 健康診断機関職員講習会 参加者2名

【オリーブ】

- 11月8,29日 職員向け普通救急救命講習会 参加者38名
- 12月17日 クリスマス&忘年会 参加者62名